

この人を訪ねて#219

夫唱婦随(ふしょうふずい)で「あゆみ」中
あゆみ はりきゅう整骨院

藤川 理恵 (ふじかわ りえ) さん 44歳

夫藤川 潤さんと同年代、専門学校での同級生であり、二人は意気投合して結婚。しばらくして「鍼灸(はりきゅう)整骨院」(以下同)を開業。とくに人々は様々なストレスや生活習慣病などが原因で、腰痛、肩こりなど身体的な「痛み」の中で暮らしている。患者の苦痛を取り除き、健康的な暮らしができるよう夫婦が一緒に手助けしている。

「はい、あゆみ はりきゅう整骨院です」と元気がよく受話器から聞こえる。ここは広島市西区草津東一丁目、パークビル一階にある鍼灸(はりきゅう)整骨院である。

妻 藤川理恵さんをインタビューするにあたり、一緒に経営している夫 藤川潤さんにまずは立ち会ってもらい話を聞いた。

草津東二丁目に移転

同院は2010年平成22年11月に「西区庚午南」丁目の草津球場の近くで開業。今年で丁度12年余になる。同院は入居していたビルが老朽化で建て替わるため、昨年6月に現在地に移転してきた。町は違っても前地とは宮島街道を挟んで直線で約500m、従来の患者さんでもそのまま来院している。

「健康が」商売になることを聞いて決心

藤川理恵さんは愛媛県今治市の生まれで、地元の高校を卒業し、一時歯科技工士をしていたが、生来アレルギーで金属粉に弱く、体調を崩して退職した。アルバイトをして過ごしていたが、親しい薬剤師さんから「これからは「健康」が商売になる時代だから、鍼灸師(はりきゅう)はどうか」といわれ、たまたま薬剤師さんの手元にあった広島市の養成学校のパンフレットをもらった。四国にも同じような学校もありましたが、これも何かの縁だと、あまり深く考えずすぐに願書を出しました。試験は「社会人枠」ということで、24才のとき、面接と小論文での入学でした。

資格取得と「出会い」

養成学校は、広島市安佐南区坪東にある「IGL医療福祉専門学校」とい、歯科衛生士、はり師・きゅう師、柔道整復師になるためのそれぞれ学科がある。藤川理恵さんは鍼灸学科に3年間在籍し、国家資格の「はり師」と「きゅう師」の資格を取った。

一方、夫の藤川潤さんは、広島三つ市出身。高校を卒業して一時的に職に就くも、ある時、体をいたため、整骨院に通ったところ、こんな、体を治す治療法があるのかと感心し、鍼灸の道を目指すこと、前述の専門学校に入学した。そこに、将来結婚する同じ年令(潤さんは早生まれ)の理恵さんがいた。

将来の夫の尻を叩く



藤川 理恵 (ふじかわ りえ)

院:広島市西区草津東二丁目2-21
住居:西区草津東一丁目在住
1978年9月愛媛・今治市生まれ44才
高校卒業後、一時歯科技工士を経て
IGL 医療福祉専門学校 2006年卒業
「はり師」、「きゅう師」免許取得夫と共に
'10年11月「あゆみはりきゅう整骨院」
開業'22年6月西区庚午南より現在地へ移転
家族:夫と長女、長男、次女

「滞るといえる」と病に至るといわれ、改善するためにツボに鍼はりや灸(おきゅう)を施して気血の流れをスムーズにする。

ツボの位置が世界標準化…鍼灸は2千年以上の歴史があるため、国によっても名称や位置が異なる。世界的に鍼灸に関心が高まるなかWHOが関与して、1989年に名称を統一。2006年に361の位置が決まった。

★鍼(はり針)…通常直径0.12mm、0.18mm程度の極めて細いステンレス製の針で治療をする。ほとんど痛みは無い。子供向けの小児鍼は、鍼を皮膚に接触が押圧させたりして治療。★灸(おきゅう)…もぐさ(ヨモギ)の葉を乾燥を直接皮膚の上に乗せ着火させる直接灸と

「次の項目は藤川夫妻から聞いたこと、資料を参照し、仕事内容を要約したものです」

鍼灸(はりきゅう)は「おきゅう」とは他

★東洋医学の中核…現在社会にはストレスや生活習慣病などで、だれでもかかる慢性疲労がはびこっている。薬物投与や外科治療で対応する西洋医学では治せない「何となく不調(昔は不定愁鬱と言われた)」を訴える子どもから高齢者が増えている。いまや古くからの医療が見直され、なかでも東洋医学の中核をなす治療法「鍼灸」がWHO(世界保健機関)などでそのメカニズムが解明されており、科学的根拠ある治療法として注目されている。

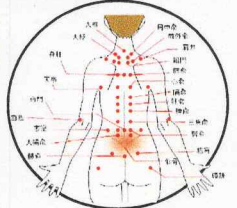
★鍼灸の歴史…「鍼灸」の起源は石器時代の中国にさかのぼり、日本に伝わったのは奈良時代。中国の僧侶が「鍼灸」の医学書を携えてやってきました。平安から室町時代にかけて「鍼灸」や漢方の中国医学が日本社会に定着し、江戸時代になると鎖国のために、「鍼灸」は伝統医学として独自の進化をする。その後医学界に変化をもたらした「解体新書」が登場し、明治政府の西洋化政策で西洋医学が台頭すると、「鍼灸」はその効果から脈々と民間医療として強い支持を得てきた。

★ツボ(経穴)…東洋医学では、全身を気エネルギーと血液が循環して身体バランスが保たれると考えられる。気血の通り道を経路といい、経路の交わるポイント

Ⅱ交差点がツボ(経穴)である。ツボが何らかの作用で



仲睦まじい夫婦で「比翼の連理(ひよくのれんり)」という。潤さん、理恵さんはこのことわざがぴったり。



WHOが認知した361ヶ所のツボ



下:低周波電気針での治療



上:温灸でツボを刺激



上:電気治療器具が完備



藤川ファミリー。今では子ども達は、中3長女、中1長男、小3次女、理恵さんは3人姉妹で、3人欲しいがまだ2人欲しいです。

皮膚との間をとる間接灸がある。

★鍼灸の効果…患者の多くは交通事故や腰痛、肩こり、ひざの痛みを持った人々である。鍼灸はこうした運動器の症状、痛みだけでなく効かないわけではない。身体の様々な疾患に効果がある。身体の一部を刺激すると、中枢神経の中にモルヒネのような神経伝達物質が放出され、痛みを脳に伝える神経経路をブロック遮断する。また、鍼灸刺激は神経を刺激して血行を促進し、痛みや疲労の原因になる老廃物を排出する作用をもっている。さらに自律神経にも効果的に働き、胃腸や心臓、血管などに作用してその働きを調節する。人の免疫力の研究がなされている。

★柔道整復師…俗にいう「ほねつぎ」、「接骨師」である。骨折、ねん挫、打撲、脱臼など外傷治療を行う。医師以外で外傷治療を自己判断で行える唯一の職業。

★はり師「きゅう師」…柔道整復師として開業するにはいずれも専門学校で3年以上知識・技術を習得する必要がある。(※あん摩、マッサージについては資格国家資格が必要である。)

「あゆみはりきゅう」は二丁目三丁目前に進むの意。目の前に薄緑色の「あゆみはりきゅう整骨院」のビルがある。前記した事項の診療内容がもたらされている。キャッチフレーズが「暮らしの中に健やかなあゆみ」を「名称の「あゆみ」を付けたわけを聞くと理恵さんは、夫婦二人三脚で前にあゆんで行くから、施設をする中で患者の皆さんが健やかに暮らせる川あゆみ(あゆみ)をねがったから」と話した。

男性もする「美容はり」

理恵さんが一番目黒の治療項目で強調したのは、まだ広島では珍しかった「美容はり」だ。以前友人と上京してその技術を学んだ。鍼で顔のむくみ、たるみなどを取り除き美顔にするもので、最近では女性もさかかたながら、接客する男性の営業マンの来院があるという。(世の中変わってきたね)

また特に健康保険の適用(施術によっては適用外もあり)でリーズナブル(納得できる)な料金で対応している。

夫 潤さんは東町の体育部長を引き受ける

藤川さん夫婦が庚午南から、草津東に移転したことは前述したが、一番悔しかったのが、庚午南の町内会の役員の人だ。夫潤さんは、前町では体育副部長で活躍。妻理恵さんは、交代といえども会のお世話をされ、町にいないとほろろお二人だったのだ。

わが草津東町はチャリンク到来!潤さんには早速東町の体育部長を来季から引き受けてもらう約束をした。理恵さんは忙しい仕事のかたわら、現在草津小学校の「体育施設開放事業運営委員会」の事務局長を引き受けている。「商売」にさしかかれない限り、若いお二人に町内でのいろいろな活躍してもらいたいと思っています。

(編集 倉田和峰)